

男女共同参画社会は、喜びも責任も男女で分かちあう社会。

「男だから」「女だから」というこだわりをなくして、だれもが豊かな気持ちで生きることができる社会をめざします。

子どもから高齢者まで、すべての年代の人々の毎日の暮らしにむすびついている男女共同参画社会について一緒に考えてみましょう。



男女共同参画社会 Q & A

Q もう十分に男女平等になっているのでは？

A 日本は、平均寿命や教育、所得などでは世界的に高い水準であるのに対して、女性が政治活動に参加する割合や専門職、管理職に占める割合が低く、男女の賃金格差も大きいのが現状です。社会全体で男性のほうが優遇されていると感じる女性は73.6%（平成17年男女共同参画に関する市民意識調査より）にのぼっています。

Q 男性の育児参加がますます重要になってきたのは？

A 核家族化が進んだことで、子育て中の母親の孤立感が高まっています。そのことが背景で虐待につながることも…。男女がともに子育てにかかわること、地域で子育て家庭を支えることが大切になっています。

Q 「男だから、女だから」のこだわりをなくすのは、なぜ必要？

A 「男だから、女だから」と知らず知らずのうちに、ムリしたり、あきらめたりしていることはないでしょうか。「男だから、女だから」ではなく「私はどんなふうに生きたいか」と考えて、あなたらしく生きていってほしいのです。いくつからでも、いくつになっても。

Q 男女共同参画社会のために、具体的に何をすればいいの？

A まずは、あなたの身近な大切な人との関係を見直してみましょう。「男だから、女だから」と、つい口に出てしまう意識の奥に自分自身の思い込みはないか、考えてみてください。

東大阪市では、どのような取り組みをしているのでしょうか。

東大阪市の取り組みを紹介します。

男女共同参画の取り組みは、あらゆる分野にわたります。本市では「東大阪市男女共同参画推進条例」と「男女共同参画推進プラン ひがしおおさか21」にもとづき、さまざまな事業を行っています。

東大阪市男女共同参画推進条例（平成16年7月制定）

主な取り組み

私たちの暮らしのさまざまな場面で、女性も男性もお互いを尊重しあって暮らしていくための基本的な考え方を示すとともに、市、市民のみならず、事業者、教育関係者がそれぞれの立場で取り組む役割を定めています。

基本計画の策定・実施

拠点施設(イコラーム)

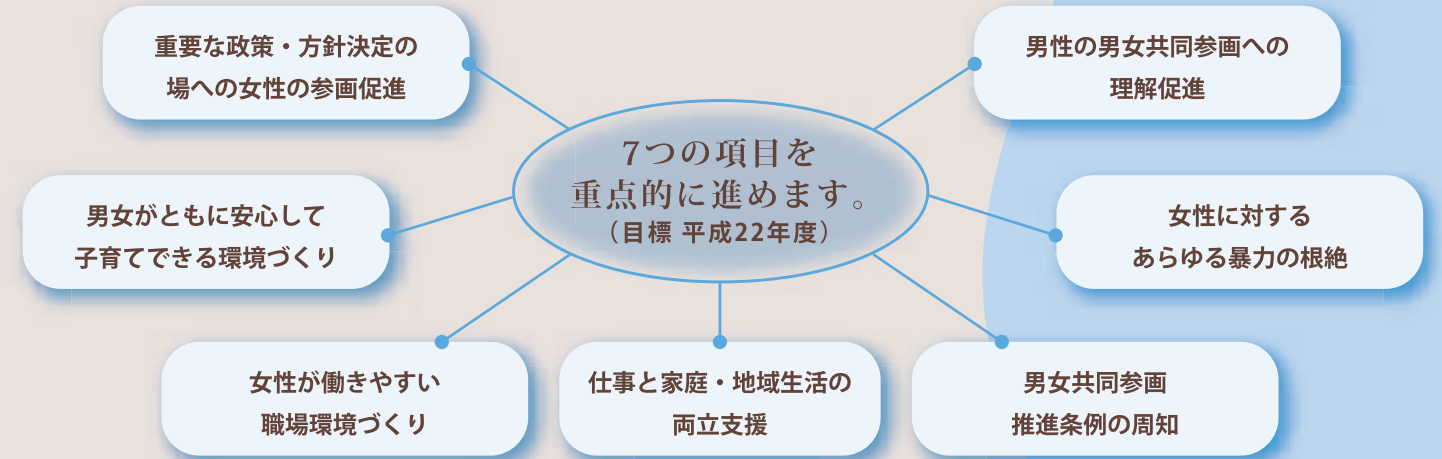
啓発・広報活動

男女共同参画審議会

活動支援

「男女共同参画推進プラン ひがしおおさか21」ってなに？

本市が、男女共同参画施策を総合的に進めていくうえで基本となる計画です。この計画に基づいて具体的な事業を行い、毎年取り組みの状況を把握して公表しています。



Column

「あなたが怖いと思ったら、それは暴力です」

ドメスティック・バイオレンス(DV)は犯罪であり、人権侵害です。ドメスティック・バイオレンス(DV)は、夫婦や恋人など親密な間柄の男女に起こる暴力のこと。身体的な暴力だけでなく精神的な暴力や経済的な暴力も含まれます。DVは相手を支配しようとする行為であり、DVの問題が深刻なのは、暴力によって恐怖心を植えつけられた被害者は、自信をなくして本来ならできることもできなくなってしまうことです。肉体的、社会的、経済的に女性より男性のほうが優位な立場にあることが多いために、被害者の圧倒的多数は女性です。大人の男女だけでなく中高校生の間でもデートDVが起こっていることが最近の調査でわかってきました。だれもが被害者にも加害者にもならない社会をつくる必要があります。

